

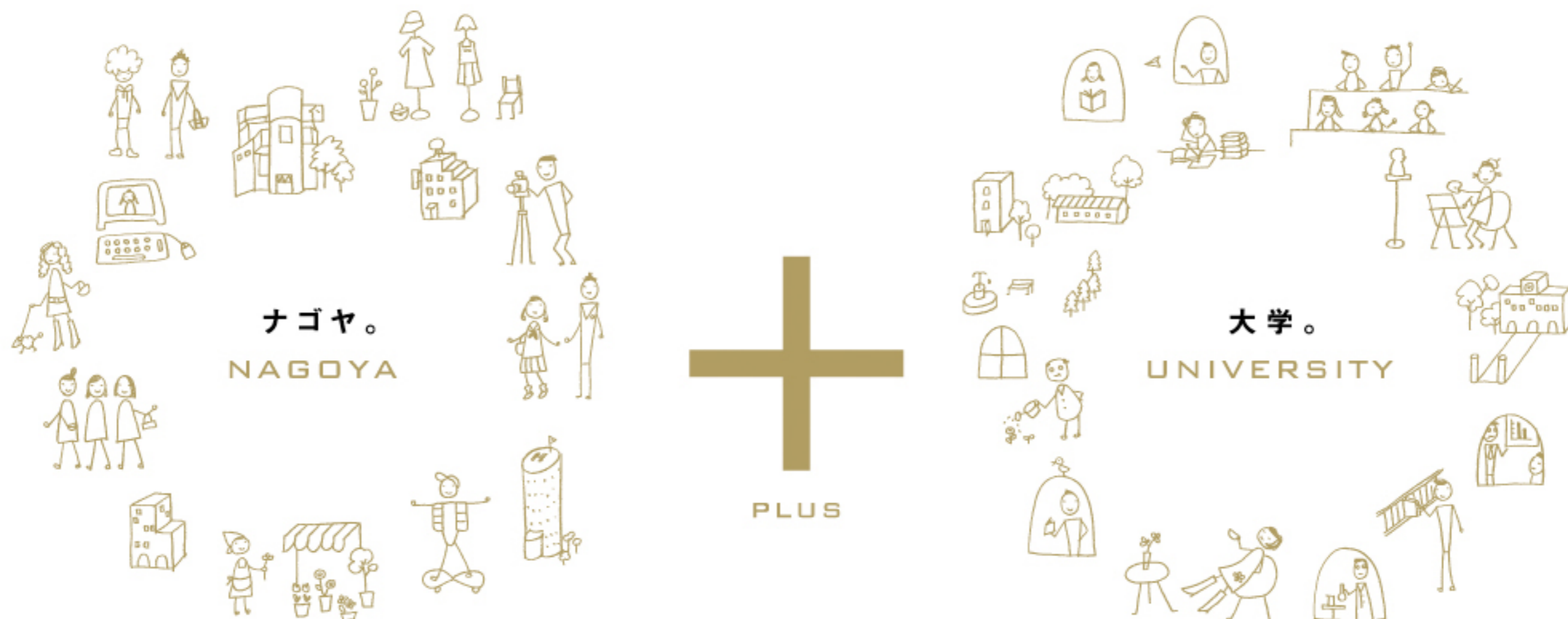
大ナゴヤ大学
<http://dal-nagoya.univnet.jp/>



大ナゴヤ大学

見えないけれど、
そこにある。

この「街」のいいところと「大学」のいいところ、
 どっちも取り入れる。
 私たちの名前は、そのまま私たちの理念です。



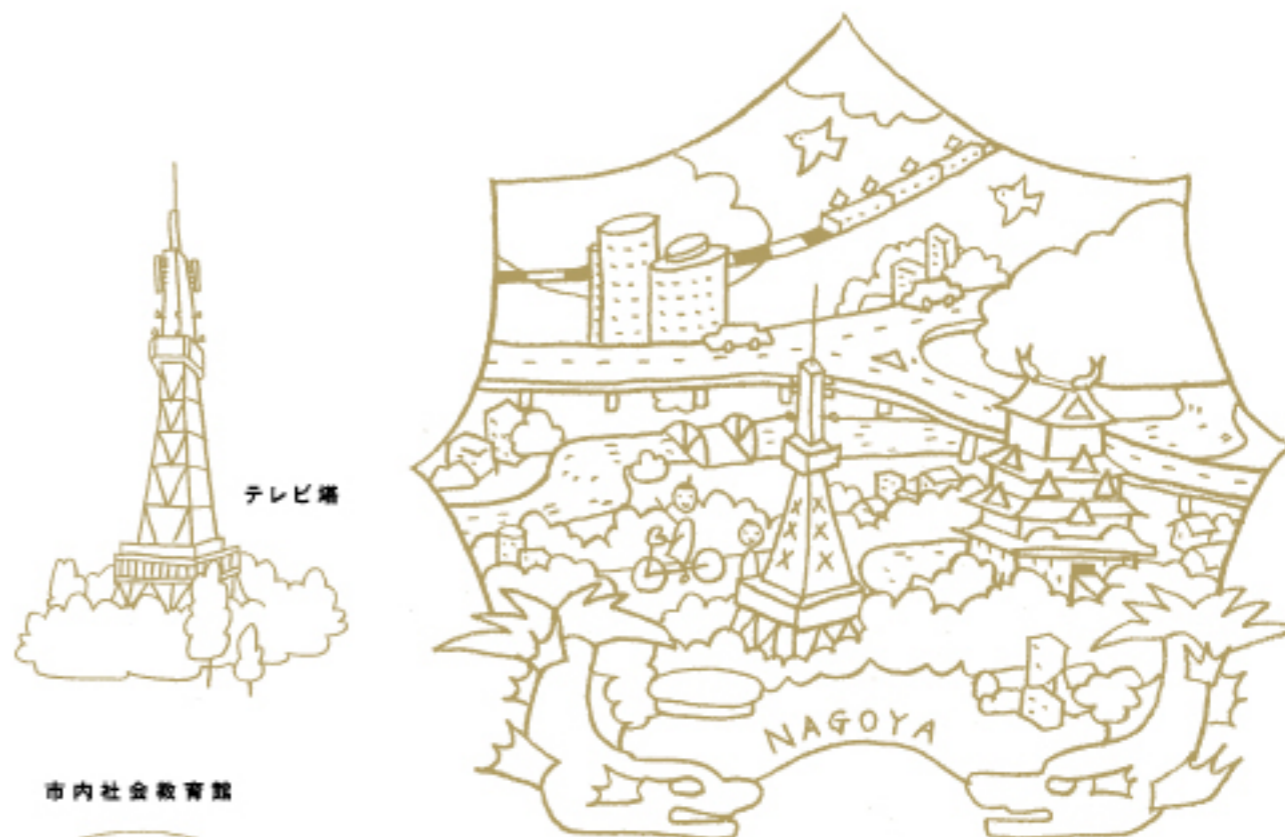
そこには、古くからあるお店や人の繋がりがあり、
 新しいカルチャーやビジネスが生まれています。
 あらゆるジャンルの様々なエネルギーが集まって、
 つねに何かが生み出されているこの街は、
 つまり、他には例を見ないほど「魅力的な人」の宝庫なんですよ。

そこには、「お金」とは別の価値観があったり、
 世の中よりゆっくりな時間があったり、広々とした空間があったり、
 そういう場所だからこそできる研究や教育があったり……。
 知性や好奇心に対する雄大なスタンス、学びたいなあと思いました。

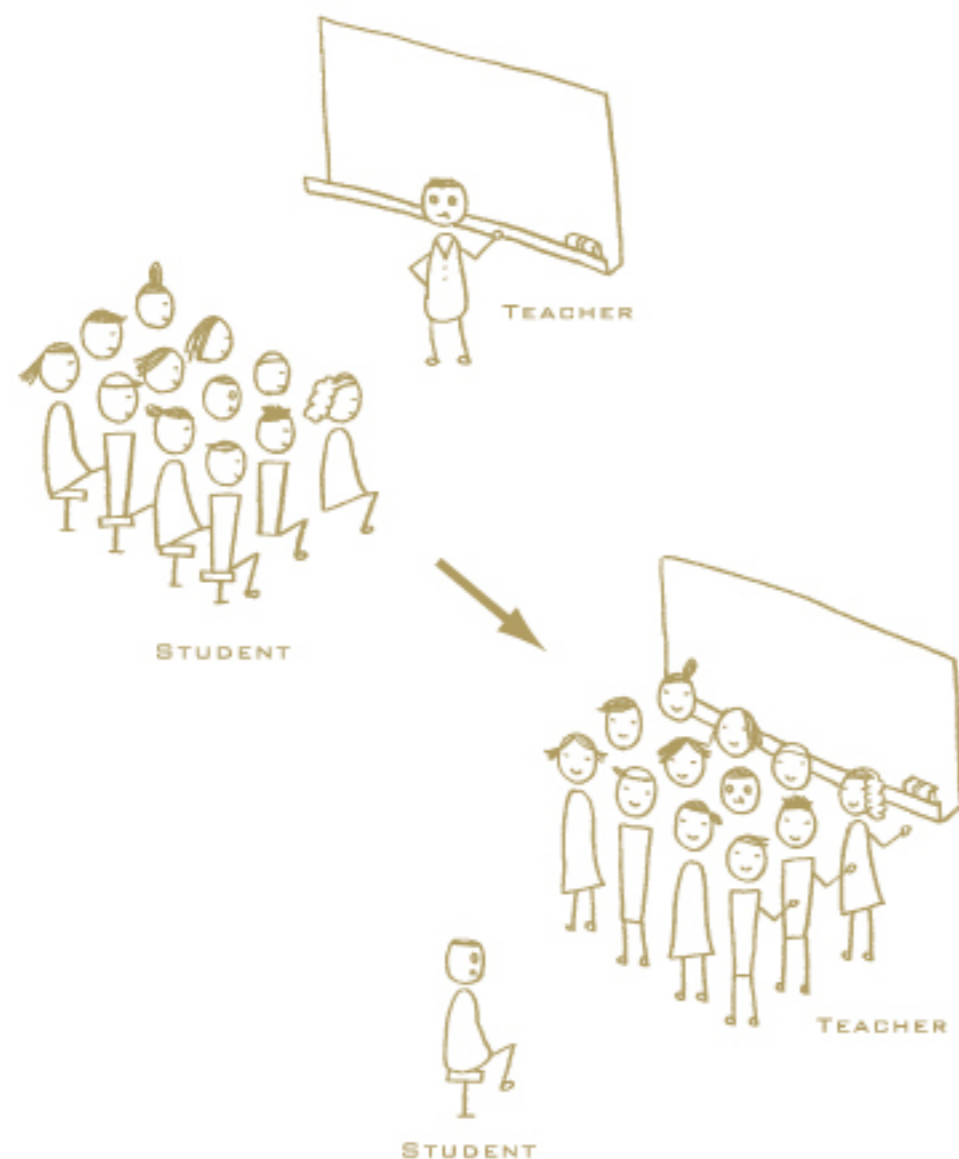
大ナゴヤ大学には、
校舎がありません。この「街」が、
まるごとキャンパスです。



時には地下街、時には瀬川、時には三河湾に浮かぶ島。
街じゅうの施設と提携しながら、カリキュラム単位で変わる教室。
学びたいナゴヤ圏内の、全国の、世界の人々がナゴヤに集う。
いわば、ナゴヤのすべてがキャンパスです。



大ナゴヤ大学の場合、 生徒は、先生にもなれます。



教える人は生涯教える人。教わる人は生涯教わる人。

役割の決まりきった教育ではなく、

「教える」と「教わる」を自由に行き来できる教育。

考えてもみてください。教えるとなったら、ものすごく勉強してしまうだろうし、

教えることで、はじめて教わることもきっと沢山あるはずです。

たとえば、こんな授業に なるのではないのでしょうか。



食を学んで、文化を知る。

「ナゴヤめし、衛生のみみつ」

先生:ナゴヤめし研究家



日々できるエコ活動。

「わたしの極秘ゴミ分別術」

先生:瀬米お母さん(市内在住)



子どもが考える伝統文化。

「ぼくのお父さんはものづくり職人」

先生:男子小学生(市内小学校在学)



わからない、と言う
先生がいてもいい。

「女子高生から見た名古屋の歴史、ここが分かりません!」

先生:女子高生(市内高学校在学)



お年寄りの豊かな経験に
耳を傾ける授業。

「囲碁から学ぶ、勝利の哲学」

先生:囲碁クラブ代表



みんなで、体育を。

「街がグラウンド、運動会をしよう!」

先生:大ナゴヤ大学学長



有言実行のための
場にもなる。

「わたしの夢は、とめられない」

先生:女子中学生(市内中学校在学)



指先を使うのも、立派な体操。

「頭と体の関係。ルービックキューブ3分完成術」

先生:ゲームの達人(市内おもちゃ会社勤務)

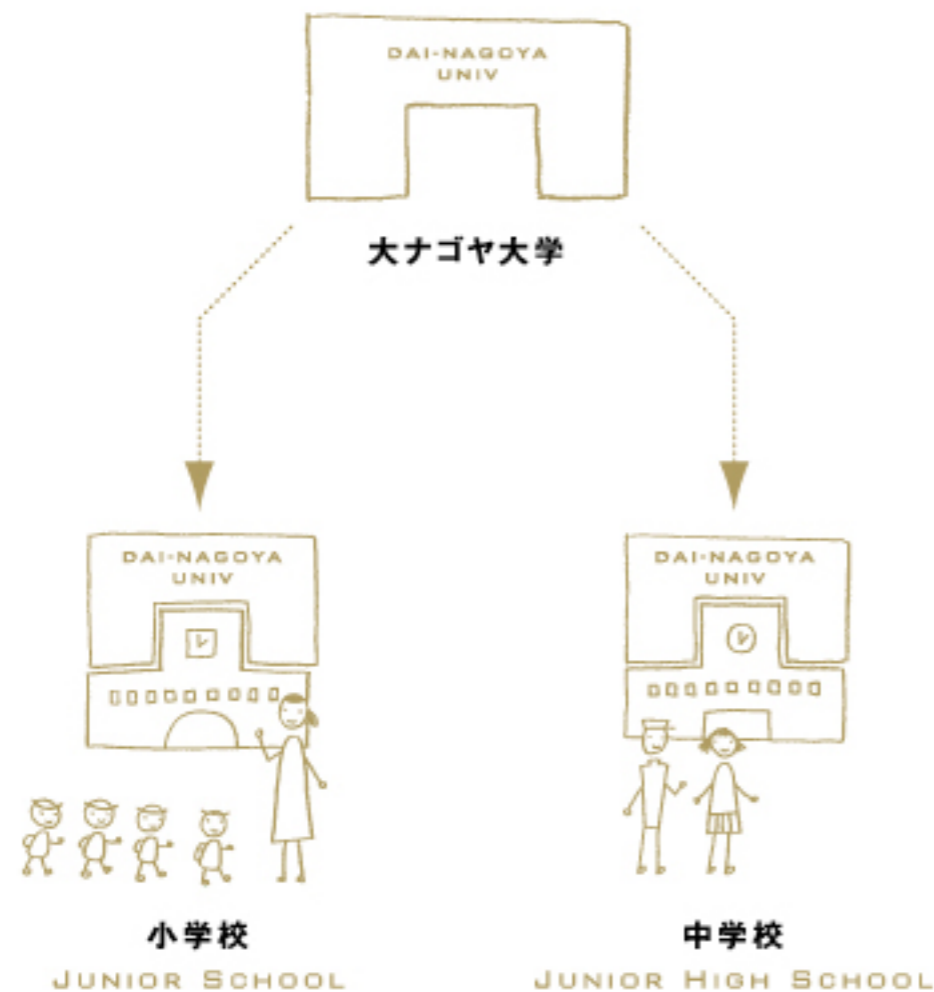
この「街」に住んでいる人や、働いている人から、

年に数回、HP上でユニークな授業を公募。

街に眠っている「才能」や「経験」をつねに発掘していきます。

審査委員会による審議後、面談を経て、晴れて先生に。

小学生のための、
大学になります。
中学生のための、
大学にもなります。



ナゴヤ圏内の小学校や中学校からの要望を聞き、
大ナゴヤ大学が、かつてない授業をプロデュースします。
企業とのコラボレーション授業あり、
NPOやNGOとのコラボレーション授業あり……。
くわしくは右ページをご覧ください。

企業との
コラボレーション授業



会社や工場などを見学



企業から、業務に関連する
分野の講師を派遣

NPO/NGOとの
コラボレーション授業



NPO/NGOから、
その取り組みに関連する
分野の講師を派遣



NPO/NGOの活動に参加

プロスポーツチームとの
コラボレーション授業



野球



サッカー

いろんな分野のトップランナーが講師に

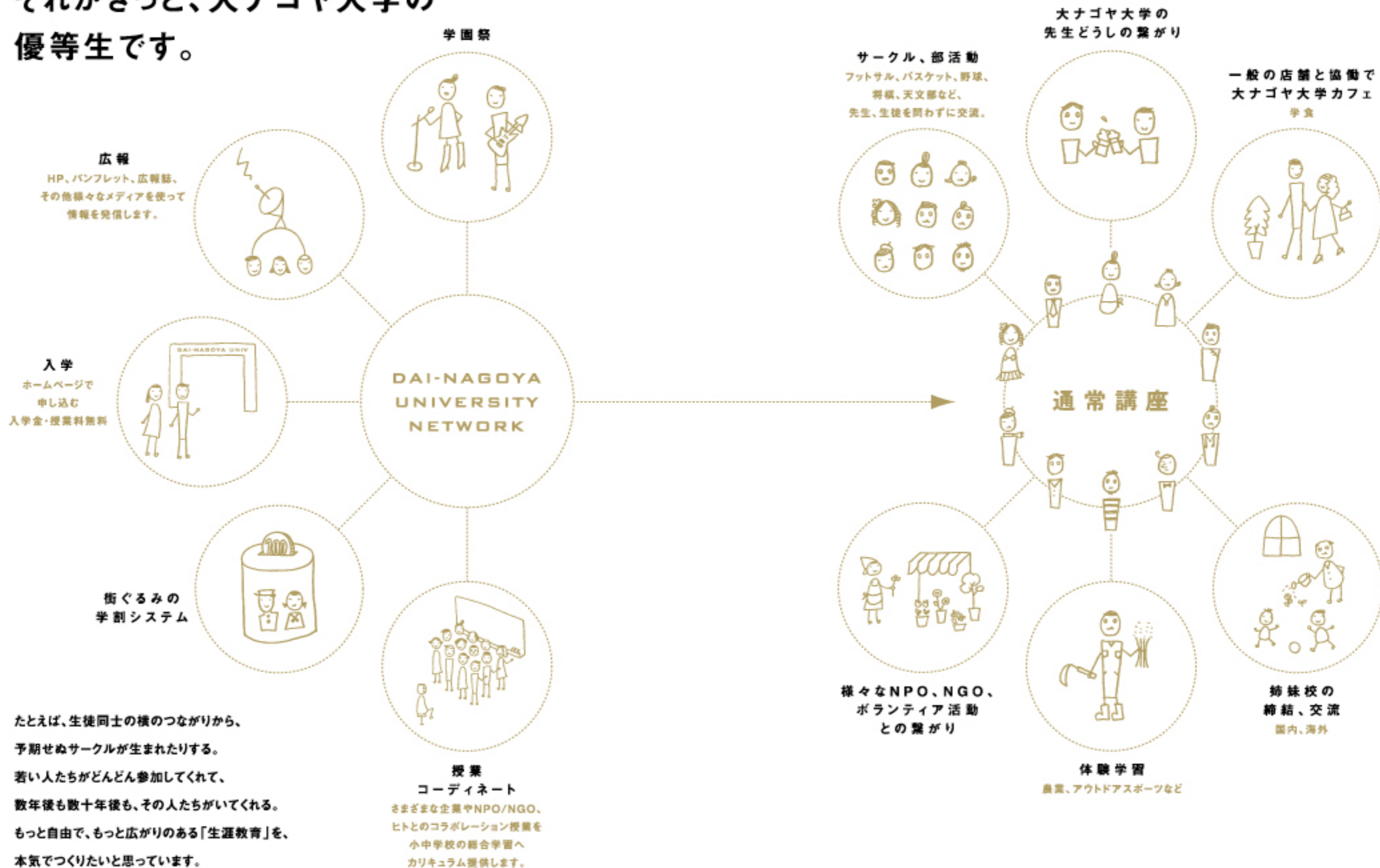


デザイナー、クリエイター、学者、スポーツ選手



働く大人を間近に見ること。
モノが生まれる工程の、音や匂いを知ること。
NPOやNGOの活動に参加して、汗を流すこと。
子どもたちには、できるだけ新鮮な方法で
「生の社会」に触れてもらいたい。そのための、
さまざまなプログラムをつくり、セッティングします。

いつまでたっても卒業しない。 それがきっと、大ナゴヤ大学の 優等生です。



たとえば、生徒同士の横のつながりから、
予期せぬサークルが生まれたりする。
若い人たちがどんどん参加してくれて、
数年後も数十年後も、その人たちがいてくれる。
もっと自由で、もっと広がりのある「生涯教育」を、
本気でつくりたいと思っています。

大ナゴヤ大学が夢見る、 これが街の未来予想図。



若者も地域のお祭りや行事に参加する街になる。



アートはあるが、落書きはない街になる。



公園の芝生で、ゴロゴロできる街になる。

大ナゴヤ大学の遠い目標は、この「街」に関わるすべての人と、関わること。そして日本のすべての街の、いいお手本になること。「社大すぎるよ」と笑われるかもしれませんが、私たちの大学が、やがては、街づくりのひとつの大きな起点になれば、それ以上の幸せはありません。



世界中の観光客が、訪れたい街になる。



日本中のどこよりも、子どもが増えはじめる街になる。



交換留学生や交換職場体験がさかんな街になる。



ゆっくり歩きたい人が、せかされない街になる。



老後が楽しい街になる。



ゴミ拾い運動のいらぬ街になる。



選挙に行くことが、あたりまえの街になる。



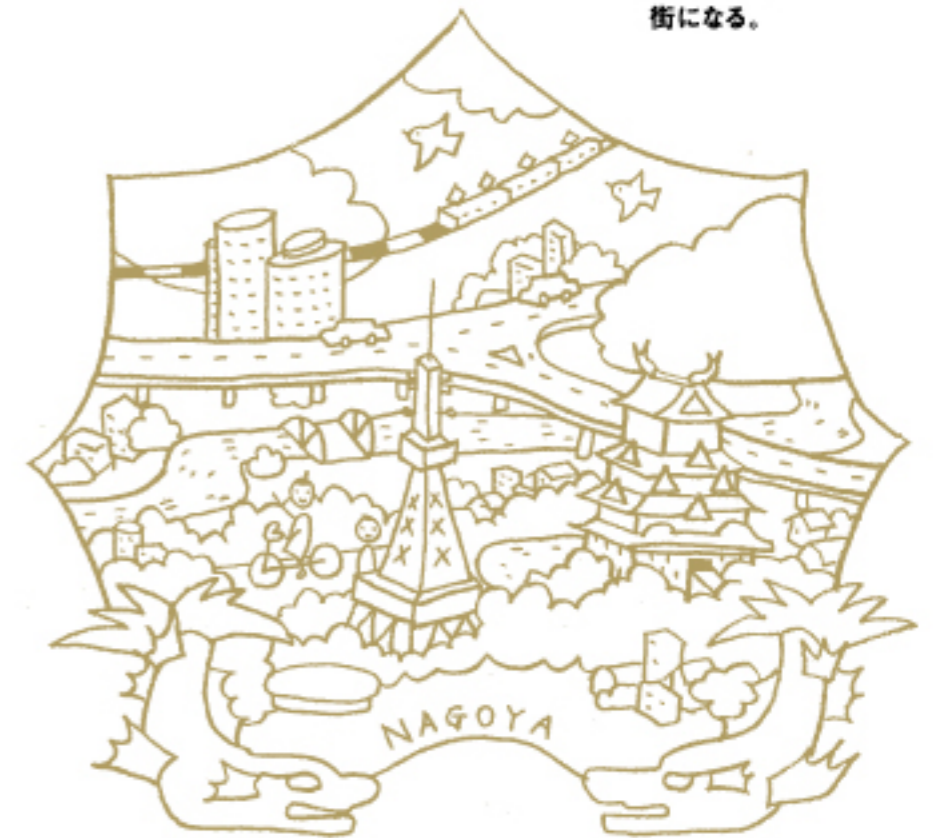
他人の子を叱る人も、ほめる人も、いる街になる。



ペットのことも、住人と考える街になる。



「産・学・行・民」の代表が集まって、会議をする街になる



あなたがいれば、
カタチが変わる。



大ナゴヤ大学は、
ネットワークですから。

「街」と「大学」

ひよんなことから、ふたつをくっつけてみると……。
「あれもできる」「これもできる」と一気にアイデアが広がって、
それが驚くほど順調に、ひとつの事業になりました。

2009年9月は、大ナゴヤ大学の完成ではなく、あくまでもスタート地点。
これからも、いろいろな人々に参加してもらうことで、
カタチを変えていきたい私たちです。

見えないけれど、そこにある。
大ナゴヤ大学、開校。

